

女性視点の災害対策

阪神淡路大震災や新潟県中越地震、東日本大震災、そして熊本地震などを通じて、災害時における女性の視点や配慮の必要性が認識されています。特に避難所では衛生面やプライバシーの問題から、心身の健康を害する人が多く、女性視点の備えや防犯の必要性が重要です。

被災者の声

女性ならではの困難や心身のストレスなど、ニーズはさまざま。声が届きにくいという実態があります。

みんながいる場で授乳しなければならなかった

食事づくりはいつも同じ人たちが担当しており負担となっていた

子どもが避難所の中で走り回るため気を遣った

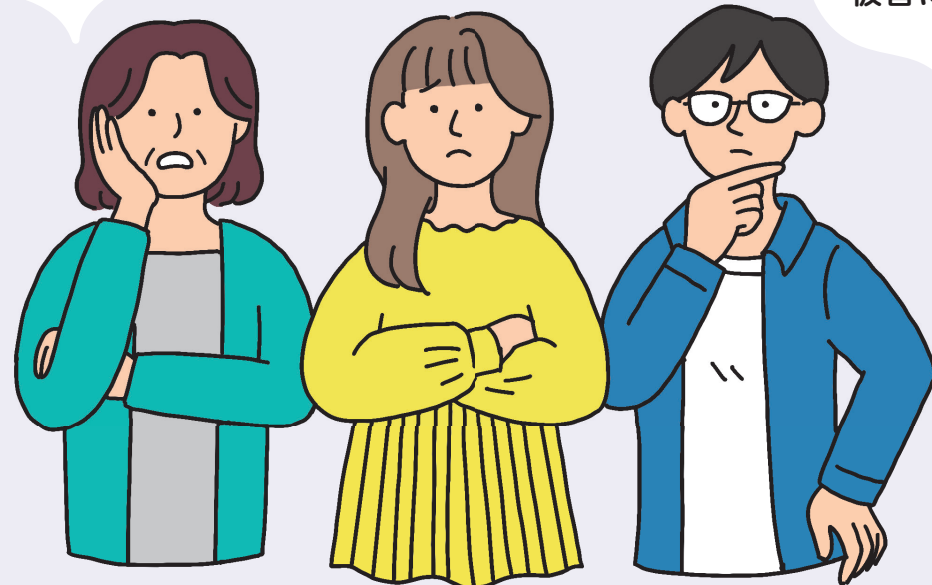
震災後のストレスで母乳が止まって、乳幼児向けの物資が不足しており困った

女性リーダーがいなかったため、女性ならではの悩みを言えなかった

生理用品を配布しているのが男性職員で気まずさを感じた

更衣室も間仕切りもなく、プライバシーが守られない状況が長く続いた

性暴力を含むさまざまな暴力が発生し、子どもや女性が被害にあったと聞いた



避難所での女性への配慮

管理責任者に男女両方を配置

災害時の避難の現場には、女性ならではの多くの問題があります。男女双方の視点を反映させるために、女性も責任者として参加することが大切です。



物資の配布方法に配慮する

物資担当者は男女両方を配置。特に女性用品(下着や生理用品など)に対する要望の把握と配布は女性が行いましょう。



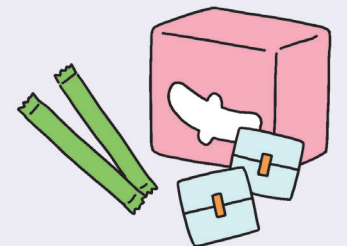
プライベート、専用更衣室などの確保

避難者のスペースには簡易の壁を設置するなどして、プライバシーを確保しましょう。また、着替えて困ることも。女性専用の更衣室を設置しましょう。



女性用品の常備

女性一人ひとりによってニーズはさまざま。支援物資に含まれていても、数が足りないことのないように常備しましょう。



避難所、在宅避難での防犯対策

一人で行動しない

単独での行動は可能な限り避け、避難所から離れる際も家族や友人などと行動を共にしましょう。トイレや着替えの際は見張りを立てましょう。



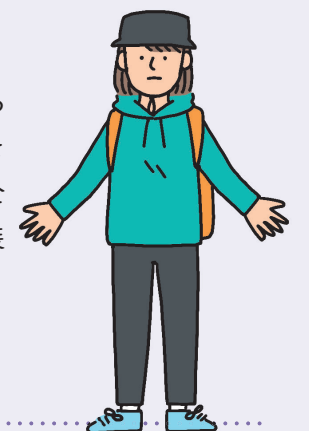
夜道や夜のトイレに注意

災害時、特に夜道は危険なので出歩かないようにしましょう。また、夜のトイレも防犯上で注意が必要です。見張りを立てるなど対策を心がけましょう。



安全重視の服装を

災害の現場では何が起きるか予測不可能です。危険を防ぐためにも見た目より安全面や機能面を重視した服装にしましょう。



突然の訪問者を家に入れない

災害に便乗し、詐欺や悪徳商法など不安につけこんだ犯罪が多発しています。訪問者の身分証明書を確認するなど慎重に対応しましょう。

